

2. 千歳市の概況

2-1. 位置・地形	8
2-2. 気象	9
2-3. 人口・世帯	10
2-4. 産業構造	10
2-5. 道路・交通	11
2-6. 土地利用	12

2. 千歳市の概況

2-1. 位置・地形

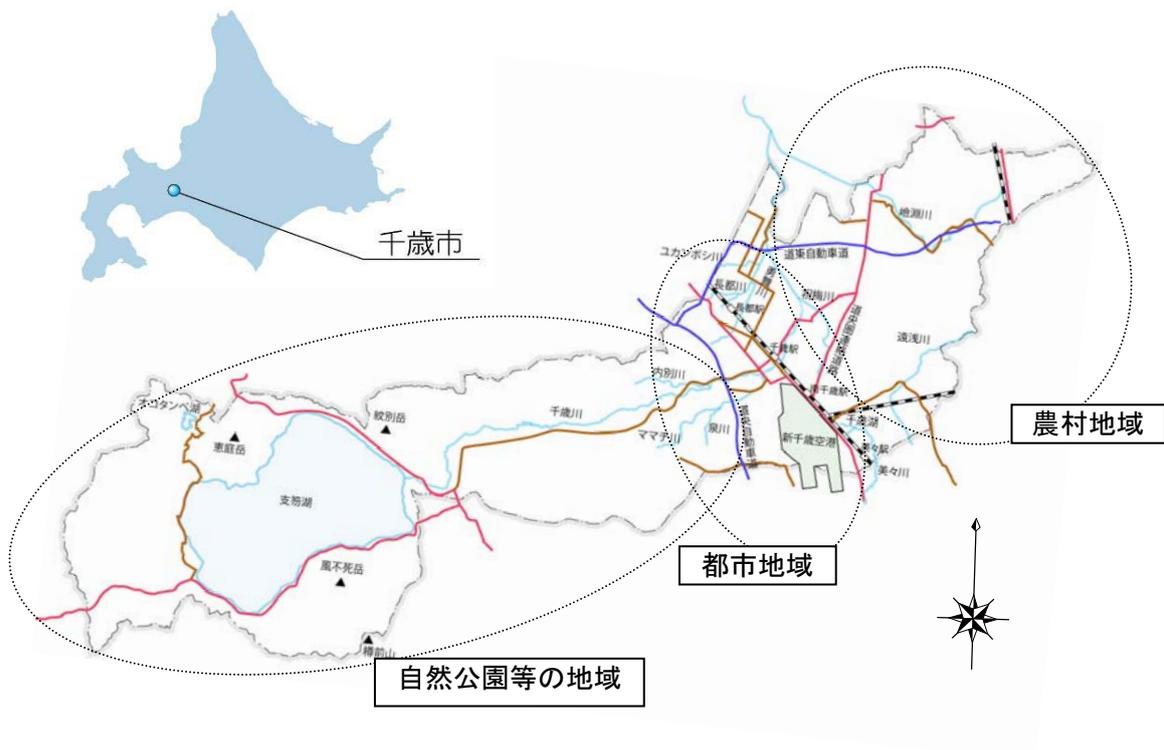
千歳市は、道央圏・石狩平野の南端に位置しており、札幌市・苫小牧市・恵庭市など4市4町に隣接しています。市域は東西に約57km、南北に約30kmとなっており、西高東低の地形を成しています。

市域の中央部は、平坦な土地で、市街地をはじめ工業団地、空港、防衛施設などにより都市地域を形成しています。

東部は丘陵地帯で、畑作を中心に畜産業などが営まれる農村地域となっています。

西部は国有林野と国立公園として指定されている支笏湖地域で、千歳市の森林面積の約87%を占めるとともに、樽前山や恵庭岳など山岳地帯を含む自然公園等の地域を形成しています。

◆千歳市の位置・地形



千歳市は河川や湖沼を多く有しており、支笏湖などを水源とする千歳川が、支流である内別川やママチ川、長都川などと合流して日本海側に注いでいます。

また、苫小牧市と接する南東部では、美々川、遠浅川が太平洋に向かって流れています。

◆千歳市の主な河川・湖沼

河川名称	流路延長 (km)	河川名称	流路延長 (km)	湖沼名称	面積 (km ²)
千歳川	69.0	長都川	3.8	支笏湖	78.4
ママチ川	10.5	ユカンボシ川	2.3	オコタンペ湖	00.4
嶮淵川	8.0	新ママチ川	0.5	千歳湖 ^{注)}	00.06
祝梅川	4.0	内別川 ^{注)}	約3.0		

要覧ちとせ（平成22年度版）

注) 内別川は一級河川と普通河川をあわせた距離です。それ以外の河川は、一級河川です。
また、千歳湖は環境庁資料（平成元年）を参考にしています。



2-2. 気 象

千歳市は、太平洋と日本海の気象の影響を受ける分岐点にあり、夏季は南風、冬季は北風が吹き、季節によって風向が異なります。

年間の平均気温は6℃～8℃で内陸型のしのぎやすい気候となっています。また、年間降水量は900～1,000mm程度です。

◆気温・降水量の推移

	気 温 (°C)			相対湿度 平均(%)	降水量 (mm)	最大風速 (m/s)
	平均	最高	最低			
H17年	6.7	30.1	-24.3	79	1,055.0	17.5
H18年	7.0	30.8	-25.5	78	1,099.0	18.5
H19年	7.5	33.6	-18.6	76	763.5	18.5
H20年	7.3	29.6	-21.7	77	838.0	20.0
H21年	7.4	29.2	-21.5	76	1,088.5	17.5

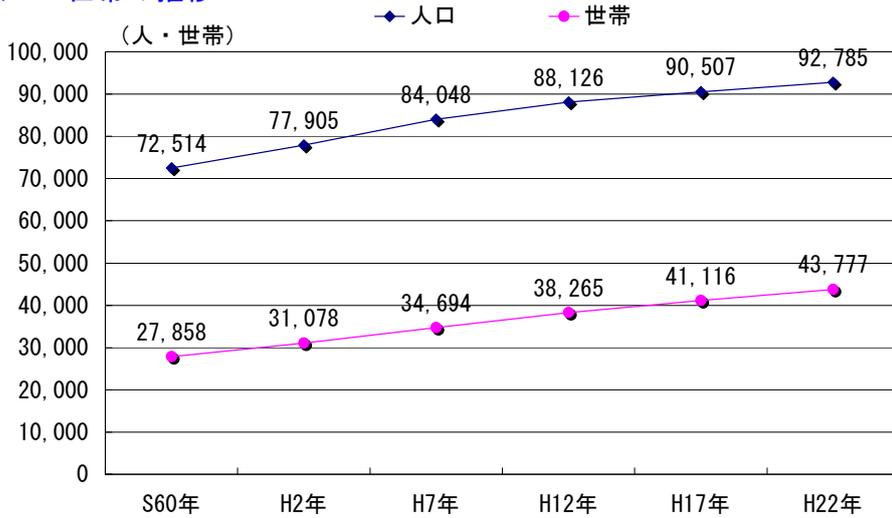
要覧ちとせ（平成22年度版）

2-3. 人口・世帯

千歳市の人口は、平成 22 年(2010 年) 4 月 1 日現在で 92,785 人(男 47,252 人、女 45,533 人)、世帯数は 43,777 世帯です。

高齢化率(65 歳以上の人口の割合)は 17.1%(平成 22 年度)となっています。高齢化は徐々に進展していますが、新千歳空港ターミナルビルや工業団地での就労機会の増加などにより、千歳市は北海道で一番若いまち(平均年齢 39.4 歳 平成 17 年(2005 年)国勢調査)となっています。

◆人口・世帯の推移

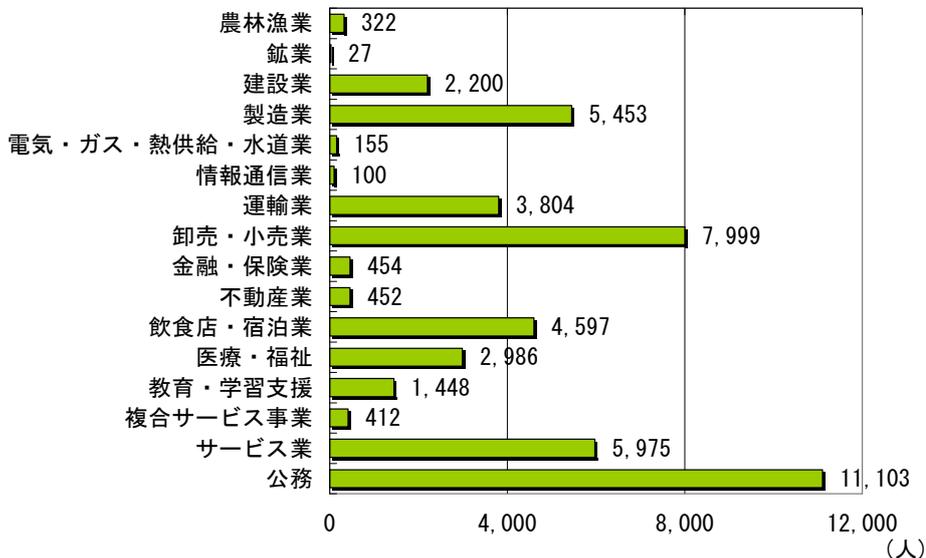


資料：住民基本台帳(各年 4 月 1 日現在)

2-4. 産業構造

千歳市の産業別人口(平成 18 年度(2006 年度))は、「公務」、「卸売・小売業」、「サービス業」を含む第 3 次産業が 39,485 人で全体の 83%を占めています。「製造業」、「建設業」、「鉱業」の第 2 次産業は 7,680 人(16%)、農業が主である第 1 次産業は 322 人(0.7%)です。

◆産業別人口の構成



資料：事業所統計調査

道内都市の工業出荷額（平成20年（2008年））をみると、千歳市は約2,266億円で5位に位置しており、道内有数の工業都市となっています。

◆全道都市の工業出荷額

順位	市名	出荷額等（百万円）
1	苫小牧市	1,169,707
2	室蘭市	634,325
3	札幌市	516,245
4	釧路市	285,538
5	千歳市	226,595

資料：北海道「工業統計調査」調査結果概要

2-5. 道路・交通

千歳市は、古くからの幹線道路であった現在の国道36号と千歳川を交通手段とし、日本海と太平洋をつなぐ中継地でしたが、大正15年（1926年）の飛行場と鉄道の開通を契機に大きな発展を遂げました。

現在は、新千歳空港を有するほか、道路においては高速道路2路線（道央自動車道、道東自動車道）、国道6路線（36号、234号、274号、276号、337号、453号）、道道12路線と、JR千歳線・石勝線を有する道央の交通の要衝です。とりわけ道央自動車道の千歳インターチェンジは、1日平均1万2千台以上の車両が出入りしています。

新千歳空港は、平成6年（1994年）に我が国初の24時間空港として運用を開始し、国内における基幹的な空港として乗降客数は、平成21年（2009年）に約1,654万人となっており、海外も含めた道内外との交通網における重要な役割を果たしています。

平成22年（2010年）3月26日からは、国際線旅客ターミナルビルが供用開始され、国際的な空の玄関口としての機能拡大も期待されています。

◆道央自動車道千歳インターチェンジ出入車両の推移

（単位：台）

	総数	日平均
H17年度	4,195,474	11,494
H18年度	4,373,648	11,983
H19年度	4,364,298	11,924
H20年度	4,204,537	11,519
H21年度	4,647,945	12,734

資料：東日本高速道路（株）北海道支社調べ

◆新千歳空港航空旅客乗降別輸送人員の推移

（単位：人）

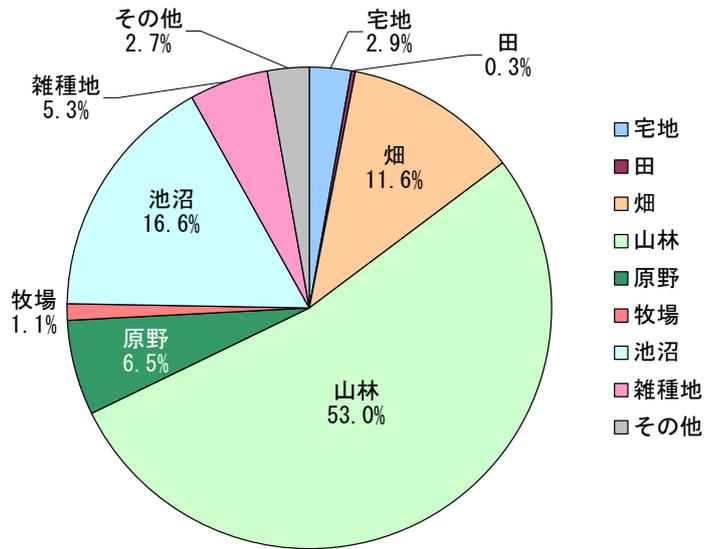
	総数	乗客	降客
H17年	17,871,184(622,161)	9,008,682	8,862,502
H18年	18,389,322(745,793)	9,271,511	9,117,811
H19年	18,361,366(833,902)	9,262,840	9,098,526
H20年	17,666,213(804,815)	8,908,650	8,757,563
H21年	16,537,013(794,501)	8,340,475	8,196,538

備考（ ）内は国際線乗降客数で再掲

2-6. 土地利用

千歳市の市域の総面積は、59,495haです。地目別面積で土地利用の状況を見ると、「山林」が53%で最も多くを占めており、次いで「池沼」16.6%、「畑」11.6%などとなっています。

◆千歳市の地目別面積の構成（平成21年(2009年)1月1日現在）



地目	面積 (ha)	構成比 (%)
総数	59,495	100.0
宅地	1,706	2.9
田	181	0.3
畑	6,935	11.6
山林	31,498	53.0
原野	3,856	6.5
牧場	624	1.1
池沼	9,893	16.6
雑種地	3,169	5.3
その他	1,633	2.7

資料：千歳市税務課調べ